

2016 年度

事業計画書

2016 年 4 月 1 日から
2017 年 3 月 31 日まで



公益財団法人 日本科学技術振興財団

はじめに

私たちは、2014年に科学技術館開館50周年を、2015年に当財団設立55周年を迎えました。「5055」の2年間は、「創ろう、私たちの未来を NEXT50!」をキャッチフレーズにして、様々な活動を展開してきました。大・展望展、科学捜査展Ⅱ、STEMプログラム、北の丸シンポジウムなどなど。

昨年10月には、科学技術館来館者数が累計で3000万人を達成しました。当館館長の野依良治先生は、「科学技術館が開館した1964年は東京五輪を契機に新幹線が開通しテレビが普及し始めるなど人々のライフスタイルが変化し始めた。2020年の東京五輪も技術革新の機会である。今一番求められていることは未来がどうなるかではなく未来をどう創るか!」と述べられています。

開館した50年前の日本は、高度経済成長期に当たり産業構造が大きく転換し様々な工業製品が私たちの暮らしに取り入れられ始めた時代です。この50年間で日本の工業製品は技術面での大きな進歩とともに信頼性を向上させ、家庭への急速な普及は生活様式を一変させました。かつて粗悪品の代名詞であったmade in Japanは、現在、高品質と信頼のキーワードとなっています。多くの先人たちのたゆみない努力のもとで、これまで培われてきた多種多様な技術・技能のおかげであることはいまでもありません。しかし、日本を取り巻く情勢や環境は大きく変わりました。

2020年の東京五輪に向けて、未来を創る日本の青少年のために、学校教育にとどまらず、社会の様々なセクターが協力して、子供たちに夢を与え、夢を育み、実現する場を提供しなければいけないと考えています。科学からエネルギーや資源に関する技術が生み出されていくことで、この限られた地球の中で人類が平和で文化的な生活をこれからも続けていくためにも、科学技術のさらなる進歩と進化が求められています。子供たちの心に科学の灯をともし、青少年の情熱をかきたてる活動に取り組んでいかなければなりません。

私たちは、財団設立の趣旨に沿い、世界における科学技術の革新に対応し科学技術の国民的な視野をさらに広くするための活動に取り組んでいきます。16年度は、「くすりの展示室」（仮称）の新設や一部展示室の改修を計画しています。具体的な事業活動については、次ページ以降に示す通りです。

14年度下期以降、当財団の経営・財政基盤を強化していくために、自助努力をキーワードに固定費の削減をはじめとする様々な経営改革に取り組んできました。まだまだ不十分ではありますが、当初の目標に沿って改革が進

んでいます。しかし、経営には思いもかけない出来事が発生するリスクがあります。そのため、気を緩めることなく引き続き改革に務めていく所存です。

「5055」を記念して2014年度半ばから開始しました「募集特定寄附金（目標金額2億5千万円）」の募集につきましては、2016年度も引き続きお願いをしております。科学技術の教育に関心をお持ちの産業界等から、広くご賛同を賜りたいと考えております。いただきましたご芳志は、開館後50年を経た科学技術館展示施設を中心に改修費用に充てる計画です。

当財団・科学技術館の使命は、お客さまである子どもたち、その保護者を含む一般の人たちと、産業界・教育界などとの間を繋ぐ「架け橋である」と考えています。科学技術館を通して、実物の展示や演示・実験の体験をお客様に楽しんでいただけるように努めてまいります。

引き続き、皆さまのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

目 次

総合活動

I. 役員会等	1
---------	---

事業活動

I. 科学技術館の運営事業	3
II. 他館の運営管理事業	7
III. 他館に対する活動支援事業	11
IV. 科学技術系人財の育成事業	12
V. 科学技術の普及啓発事業	13
VI. 科学技術の振興に関する調査研究事業	14
VII. 科学技術の研究開発とその促進事業	14
VIII. 情報システムの設計開発と運用サービス事業	14
IX. 科学技術館施設の利用促進事業	15
X. 補助を得て実施する事業	15
XI. 助成を得て実施する事業	16

[総合活動]

I. 役員会等

1. 会議の開催

- (1) 理事会の開催
- (2) 評議員会の開催
- (3) 常勤理事会の開催

2. 北の丸懇談会

日本科学技術振興財団の運営と今後の方向性に関する懇談会（略称：北の丸懇談会）を開催し、今後の事業計画の策定や重要課題・懸案事項等について、ご意見をいただき、財団運営に反映させていただきます。

3. 対外機関との連携活動

(1) 北の丸科学技術振興会

公益財団法人日本科学技術振興財団への移行にあわせ、賛助員制度を発展的に解消し「北の丸科学技術振興会」を立ち上げています。「北の丸科学技術振興会」は、企業、研究機関等との連携を強化しわが国の科学技術の振興に貢献することを目指します。

(2) 各種外部企業・団体との連携活動

企業・団体との各種連携活動を強化します。

4. 組織

財団組織のスリム化、効率化を図るため、一部分散していた科学技術啓発事業の集約を目的とし 2016 年 4 月 1 日付で人財育成・施設開発部を人財育成部と改め、各部公益事業の整理統合を行います。

(1) 各部との事業連携・人財育成

財団職員のレベルアップを図り、より効率的・効果的な事業展開を行うために、科学技術館勉強会等、財団職員の育成強化を図ります。

5. 広報活動

財団全体に関わる各種広報活動を推進します。

(1) 財団広報活動

財団の広報は、科学技術館運営部の広報の一部を経営企画・総務室の広報に統合し、さらなる充実に努めます。

(2) 財団広報誌「JSF Today」の制作・発行

財団の諸活動に対して深くご理解いただくために、広報誌を年4回発行します。

(3) 「科学技術館メールマガジン」の制作と発行

科学技術館で行うイベント・展示の紹介、財団が行う科学技術理解増進活動の参加募集など、科学技術館並びに財団活動の「今」を、毎週水曜日にメールマガジンの形式で配信します。イベント等のリアルタイム情報、混雑情報等のリアルタイム情報を Twitter により一般の方々に発信します。

[事業活動]

I. 科学技術館の運営事業

主として青少年、親子連れ、家族連れを対象に、実際に手で触れて操作することで、楽しみながら理解できる体験型の展示手法を用いて、科学技術・産業技術の振興に繋がる情報や知識の普及啓発活動を展開し、産業や技術開発への理解増進と、理工・科学・技術系に携わる創造的人財の育成に努めてまいります。また、青少年を対象として目標を持った継続・反復的な活動を展開する「サイエンス友の会」の充実を図るとともに、学校休暇期には特別展を開催するなど、機会をとらえた事業活動を行ないます。

1. 科学技術館の常設展示の運営

(1) 展示室の運営

①展示室及び展示の保守・管理

来館者が安全・快適に見学できることにより、展示を通した館の目的をより良く達成することができるよう、常に展示及び設備の保守・修理・改善等の整備を実施し、環境向上に努めます。

②展示の解説および実演

1) 約 20 の常設展示室においてスタッフによる展示の解説を行うとともに、毎日 40 回以上の実験プログラム演示を行います。

2) 実験スタジアムRでは、「味覚教室」(味の素(株))、「ろ過で地球の水について考えよう」・「せんの不思議」(東レ(株))、「光のじっけん室」(キヤノン(株))など企業と連携した実験プログラム演示を実施します。

③入館者の安全管理

館内での事故・怪我や病人の発生、また、災害時や緊急時には、来館者の応急処置、救急車の要請等、緊急対応マニュアルに沿って対応します。

(2) 広報活動

①ウェブページ等による広報活動

館内での開催イベント等についてウェブページやメールマガジンで常に最新の情報を発信します。

②「子どもに教えたい！科学技術館」の展開

ウェブページコンテンツ「子どもに教えたい！科学技術館」は、まだ来館がない小学生とその保護者を読者として想定し、科学技術館のスタッフが語りかける各展示室のトピックスシリーズです。開館 50 周年を迎えた科学技術館が、次の 50 年という新たな段階を歩んでいくにあたり、展示室ごとの見所を特集記事としてウェブサイトに掲載することを通して、展示出展団体・機関・企業との連携協力関係を再認識すると同時に、より多くの来館者を迎えられるように新たな広報展開として進める計画です。

③入館者誘致活動

- ・団体利用者のデータから、地域別、学年別の利用状況や来館目的を分析し、とくに団体利用繁忙期以外により多くの来館者を誘致するための施策を検討します。
- ・ウェブページ等を通じて学年別の展示体験コースを提供し、学校団体の利用促進を図ります。
- ・来館者が各展示室の特徴や、実演プログラムの実施時間などを分かりやすく把握できるよう、科学技術館フロアマップや実演プログラム開催タイムテーブルの整備、情報更新を図ります。
- ・リピーターズ・チケットの利用状況を分析し、より効果的な方策を検討します。

(3) 学芸活動

①博物館学芸員養成活動

将来博物館に関わる分野で活躍する人材の育成とともに博物館に対する深い理解者を養成する意義をもって学芸員資格の取得を目指す学生を対象に博物館実習を受け入れます。

②体験学習・職場訪問の受入れ

中学校等からのキャリア学習への協力要請に応じ、館内での作業体験学習・職場訪問を受け入れます。

③科学技術館活動の評価

科学技術館の展示と活動の評価について検討を進めます。

(4) 館内施設の活用

実験工房、実験スタジアム L、各階イベントホールをはじめ、回廊壁面を利用したギャラリー等館内施設を有効に活用して、団体・機関・企業等と連携したイベントや企画展の誘致を図ります。

(5) 連携・交流事業

①博物館連携活動

日本博物館協会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、東京都博物館協議会などの組織を通じて、全国の博物館、特に理工系博物館との連携を深めるとともに、各種博物館会議、研修会等に参加出席し、情報交換と職員の資質向上を図ります。また、機会を利用して海外の博物館との積極的な交流を図ります。

②地域との連携事業

千代田区や千代田区ミュージアム連絡会加盟の社会教育施設・団体と連携し、地域での多様な生涯学習機会の提供を通して地域の賑わい創出と文化・芸術の振興に貢献します。

③企業との連携事業

1) ボランティア活動の受入れ

科学技術理解増進分野において社会貢献活動を実施している企業などと連携し、ボランティアの派遣等を受け入れ、「サイエンス友の会」などの活動を協同します。

2) イベントの開催

社会貢献事業に関心のある企業に働きかけ、各社の事業の特徴に相応した CSR プログラムを新規に共同開発し、話題性・新規性のある企画により教室やイベント等を開催します。具体的には、味の素(株)「味覚教室」、東レ(株)「ろ過で地球の水について考えよう」・「せんいの不思議」、キャノ

ン(株)「光のじっけん室」、中外製薬(株)「細胞の観察とDNAの抽出実験」、日本アイ・ビー・エム(株)「TryScience実験教室」等を実施します。

2. サイエンス友の会の活動

小学校3年生から高校生までを対象とした1年間の会員制の科学・技術体験教室を実施します。活動は、おもに「実験教室」「工作教室」「自然体験教室」「施設見学会」等で、年間300以上の教室、延べ6000名ほどの参加を計画しています。単に科学や技術の知識を身につけるだけでなく、多くの体験を基に、自ら探究し挑戦する意志や意欲を高めることを大切な目標とするとともに、行事を通じた家族間のコミュニケーションも図ります。

3. 特別展・イベント等の開催

春休みや夏休みなど学校休暇期間に開催する特別展を中心に、科学的なものの見方やものづくりを通じた技術の体験を企画実施し、誰もが科学・技術について考え・親しむことのできる機会を創出します。

<特別展>

(1) 2016年春休み特別展「海！！未来をひらく！海からの贈り物」

サメ、ヒラムシ、フナムシ、フジツボ、クラゲなど海洋生物のもつさまざまな特性が最先端の科学や産業技術に活かされようとしています。これらの海洋生物にどのような科学技術が秘められているのか、映像や生体・標本・ロボットなど様々な角度からその秘密に迫ります。

会期：2016年3月19日～4月7日

(公財) 日本海事科学振興財団助成事業

(2) 2016年夏休み特別展「北の丸マジカル化学研究室(仮称)」

不思議さや迫りに富む化学現象を扱う「化学マジック」と呼ばれるデモンストレーションを中心として、化学の実践者が感じているところの化学の楽しさがわかる展示・演示プログラム等を実施します。

会期：2016年8月6日～8月21日(予定)

(公財) JKA補助事業

(3) 2107年春休み特別展「たからのうみと うみのたから」

「海」を活用した次世代技術やそれに係る産業・科学技術について幅広く取り上げ、「海・海洋」への意識向上、興味関心を喚起できる機会を提供します。

会期：2017年春休み(予定)

(公財) 日本海事科学振興財団助成事業

<イベント>

(1) 「ワクエコ・カーモデラー教室」

自動車展示室「ワクエコ・モーターランド」において、プロのカーモデラーの指導により工業用クレイを使ったカーモデル造作教室を行います。

会 期：2016年9月、2017年3月（予定）

主 催：日本カーモデラー協会、（一社）日本自動車工業会

(2) 「ものづくり体験 たたら製鉄」

ものづくり体験関連イベントとして開催します。

会 期：2016年11月初旬（予定）

共 催：（一社）日本鉄鋼連盟

(3) FORESTイベント

FORESTフロア来場者向けに、身近なものを使った簡単な工作や、気軽に楽しめる工作を、年間を通じて複数回実施します。

(4) 理研DAY

理化学研究所の現役研究者に登壇いただき、研究の話はもとより、趣味や好きな本、映画など色々な話題を通じて科学者・研究者と来館者が直接対話できるイベントを、毎月1回開催します。

(5) 「夢・化学－21」わくわく理科・実験教室

小学生を対象に、実験や工作・観察を通じて、化学の面白さや不思議さを体験してもらう教室を開催します。年間を通じて複数回実施します。

主 催：「夢・化学－21」委員会

4. アウトリーチ活動

科学技術館で開発した教育プログラムの実演または実演支援を、全国の科学館やイベント等において実施します。

(1) 出張実験実演・実演支援

企業や団体が主催または参加しているイベント等において、要望に応じて実験ショーや工作教室などの教育プログラムを開発し、出張実演または実演支援（監修やレクチャー等）を行います。

(2) 巡回展示物の貸出し

①本年度は「ラ・ビレット展」、「地球環境展」、「マグネット展」、「スポーツを科学する」、「トリックアート展」、「感覚・体感フィールド」、「いきものから学ぶロボット展」、「科学捜査展」、「はかるのヒミツ展」、「究める！マグネット展」、「科学戦隊実験ジャー」の11アイテムを巡回展示物として積極的な貸し出しを行います。貸出先のニーズに対して様々な提案を行いながら、科学館、博物館はもとより、展示面積が狭い児童館や公民館、学校等でも利用できるように運用計画を作成しています。

②付加価値を高めるために科学実験ショーや、ワークショップ、工作などのソフト面での提供も含めて巡回事業を実施します。

5. 展示の新設、更新、実験体験プログラム開発など

科学技術の進歩や時代の求めに呼応した情報提供や体験展示を通じて実現するため、展示・展示室の新設、

更新を行います。また、同様の目的をもって実験体験プログラム等の企画・開発を行い、常設展示内の実験演示や特別展やイベントで活用します。

<展示室新設>

(1) 3階F室新展示 「くすりの展示室（仮称）」 出展：日本製薬工業協会

薬の歴史や科学、製薬の研究開発等について体験的に理解できる場を構成することにより、子どもたちが薬の果たす役割の大きさに気づき、薬で世界の人々が救えることを体感することなどを通じて、将来薬の研究やその分野で活躍する人材として育っていくことを促す展示室を新設します。

オープン：2016年12月中旬予定

<展示室更新>

(1) 常設展示室「エレクトロホール」を改修し、近年の電機・電子関連技術及び同分野の産業技術・機械工業技術をテーマとした展示室を整備します。本事業は2か年計画で実施します。

<プログラム開発>

(1) CanSat プロジェクト

STEM教育プログラムの実施(ボーイング社助成事業)の一環として、CanSatの大会“ARLISS”出場に必要な技術を調査し、それを中高生に指導するための教育プログラムを開発・実施します。

(2) 展示室で実施しているワークショッププログラムの改善

「ワークス」「建設館」「鉄の丸公園1丁目」「DENKI FACTORY」「ワクエコ・モーターランド」など常設展示室で実施している実験・ワークショッププログラムについて、社会の話題や情報ニーズに即した適時性のあるテーマや関連する産業分野が訴求するプログラムの企画・開発を行ないます。

II. 他館の運営管理事業

科学技術館の運営経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設の運営を行うことにより、科学知識の普及啓発に貢献します。

1. 所沢航空発祥記念館の運営(埼玉県の委託事業)

所沢航空発祥記念館の事業5か年計画および設立趣旨に基づき、航空に関する歴史や文化、科学技術を中心に、利用者が求める学習機能・レクリエーション機能・娯楽性などを充足する豊かで特色ある文化的サービスを提供するとともに、青少年の空、航空に対する夢や憧れ、知的好奇心の醸成を図る展示・イベント等、様々な活動を通じて、他に類のない特色のある日本一の航空博物館を目指します。

(1) 展示館の運営

①利用者から寄せられたご意見やアンケートの回答により入館者ニーズを的確に把握し、ニーズに即した展示施策(スポット展示、収蔵品の展示・定期的な入れ替え等)を通じて、いつ来ても新鮮で飽きない記念館運営を目指し、入館率・リピート率の向上を図ります。

- ②航空に関する収蔵物の調査・収集・保存活動を継続的に行い、展示施策に応じた実物展示や電子的展示等、収蔵物の効果的な活用を通じて、利用者満足度の向上を図ります。
- ③フロアアテンダントの適正配置により、入館者と記念館の“あいだ”をつなぐ「第2の学芸員」として、笑顔とホスピタリティに満ちた入館者サービスを提供し、利用者満足度の向上を図ります。
- ④2011年度に新規導入された「ワークショップ」、「スペースウォーカー（重力体験装置）」、「フライトシミュレータ」にインストラクターを配置し、安全管理、分かりやすい操作・演示解説を行います。

(2) 大型映像館の運営

- ①利用者ニーズに応じた映像作品を上映し、利用者満足度の向上を図り、入館率・リピート率の向上を推進します。また、2016年2月に導入した高解像度デジタル・プロジェクターにより暫定利用しているプロジェクターのレンタル費用を削減するだけでなく、バラエティーに富んだデジタル映像を安定的に提供できるよう推進します。
- ②大型映像フェスティバルを適宜実施し、大型映像の魅力を臨場感のある立体音響システムとともに堪能できる映像作品を厳選し、上映します。観覧前後に上映作品をより深く堪能いただけるようミニイベントなどを開催します。
- ③大型映像館の運営に係る年間経費を見直し、経費の低減を図ります。
- ④記念館の設立趣旨に基づき、豊かで特色ある文化的サービスの提供を目的として、科学技術映像祭入選作品の上映会を9月頃に開催します。

(3) 特別展・企画展の開催

利用者ニーズ、その年の時流やトレンド等を考慮し、タイムリーで希少価値の高い特別展・企画展の企画を立案し、ステークホルダーとの連携や実効性のある広報戦略を展開し話題性を高め、開催します。

(4) 完全バリアフリー化と安全管理の徹底

- ①未就学児、高齢者、心身障害者、外国人など、全ての入館者が平等に安心して楽しめる環境整備に努め、完全バリアフリー化による入館者サービスおよび利用者満足度の向上を推進します。
- ②怪我防止用の緩衝材の貼付、ピクトサインによる事故の未然防止、魚眼レンズによる全方位撮影可能な監視カメラでの防災・防犯監視、警備員による定期巡回と機械警備の実施等、引き続き館内の安全管理に努めます。
- ③研修に関しては年2回のE-Learningによる防災研修と防災訓練に加え、応急手当研修（心肺蘇生法、AED 使用法、止血法、気道異物除去等）を指定管理者パートナーである公益財団法人埼玉県公園緑地協会と合同で実施します。その際、習得度を評価するためのテストを実施し、基準点に満たない者は再履修・再テストを行うことを義務付け、「安全管理、BEST から PERFECT へ」をスローガンに更なる安全管理の徹底に努めます。

(5) 連携活動

- ①現在、加盟している埼玉県博物館連絡協議会、全国科学博物館協議会、全国区科学館連携協議会、日

本ジャイアントスクリーン協会に引き続き加盟し、他館との情報交換や運営スタッフの質的向上、加盟各館の広報や巡回展示物の活用など、更なる協力・連携を図ることにより記念館の質的向上を図ります。

②国内外の航空博物館との姉妹提携を推進し、記念イベントとしての特別展・企画展の開催や展示物の館間貸し出しを図ることで、利用者満足度および入館率・リピート率の向上を目指します。

③航空インストラクター（ボランティア）を活動分野ごとに再編成し、分科会として統括することで事業計画や新たな実機導入に関する委員会等への参画を推進します。

(6) 利便性の向上

①各種割引チケット・各種パスポート等を発行し、利用者の利便性を高めることにより入館率・リピート率の向上を図ります。また、春休み・GW・夏休みなどの繁忙期は、月曜開館やナイトミュージアムなど、営業日・営業時間の柔軟で弾力的な運営を図ることにより、利用者ニーズに応えます。

②人気が高く落選者が多く出た公開講座は落選通知と共に入館料の割引を案内し入館者増を図ります。

③人気が高い公開講座は講師等と調整して再演を目指します。

(7) 広報活動

記念館の認知度を高め、入館者誘致に結びつけるため、パブリシティを中心として効果的な広報を行います。

①ウェブページおよび相互リンクする facebook ページを活用して特別展・企画展の開催情報等、常に最新の情報を発信するとともに、今後、他のソーシャル・メディア・サービスも多用して広報リソースの拡大を推進します。

②県政・市政記者クラブを通じたプレスリリースを行うとともに、新聞・テレビ等のメディアに取り上げられなかった広報は、メディア各社に対し個別にアプローチし、広報確度の向上を図ります。

③彩の国だより(埼玉県発行)、翔びたつひろば(所沢市発行)および主要新聞、雑誌に広報を行います。

④埼玉県近県の博物館、市内の学校や公民館、図書館等の公的施設にポスターおよびチラシの配布を行います。

⑤当館からのイベント情報の提供を希望するリピーター顧客に対しては、ダイレクト・メールやEメールを活用した情報発信を行います。

(8) 団体誘致活動

①埼玉県、市内の児童館、市内小・中学校にリーフレットを配布します。

②都内近郊の旅行会社、バス会社と団体ツアー企画の立案し、団体客の増加を推進します。

③図書・資料室機能の充実と市立図書館との連携を図り、新たな個人客、団体客の増加を推進します。

(9) 巡回展示物の貸出し

特別展やスポット展示の展示物の巡回展示物化を視野に入れた展示物制作を推進し、貸出先のニーズに応じた様々な提案を行いながら、博物館はもとより、展示面積が狭い児童館や公民館、学校等への貸し出しや当館でのスポット展示での活用等を積極的に推進します。

(10) 普及啓発活動

①学習プログラム(学習ノート、展示ガイドツアー)の実施

常設展示、特別展では伝えきれない内容を補完することなどを柱に、ファミリー層をターゲットとした新たな利用者やリピーターの確保、CS向上を目指し、継続して新しいプログラムを導入します。

②ワークショップコーナーの多目的活用

記念館の「学びの場」であるワークショップコーナーを多目的活用することで、ワークショップコーナーの活性化を図ります。新たな実験演示メニューの開発・演示、企業のCSR活動と連携した演示、調べ学習の場としての航空図書館機能の導入、キッズ・チャレンジ倶楽部や小中学生の職場体験の拠点化と成果物の展示を兼ねたショールーム化等、青少年の知的好奇心の醸成を図ることを目的に、ワークショップコーナーの再生を推進します。

③友の会「キッズ・チャレンジ倶楽部」の実施

科学技術館における「サイエンス友の会」活動のノウハウを活かし、2009年度に所沢航空発祥記念館に新しく友の会組織を設けました。今年度も引き続き実施します。「科学する心」を育て、「創る喜び」を体験させるために、小学3年～6年生対象の会員制組織を作り、航空の科学を中心に工作教室・実験教室・自然観察教室・航空関連施設見学会などの各種行事を実施します。

(11) ボランティア活動の充実

工作教室の開催、航空機の保守・メンテナンス、格納庫・YS-11の公開、飛行機工作教室の開催、常設展示の解説や展示解説ツアーの実施、近隣小学校へのアウトリーチ活動など、航空知識の豊富な航空インストラクター・ボランティアの協力を得て、記念館活動の幅を広げ更なる充実を図ります。また埼玉県が進めている展示機体の入れ替えにも協力を頂く予定です。

(12) ショップ・レストランの運営

記念館の付帯施設であるスーベニアショップおよびカフェレストランとの情報交換を密に行うことで、特別展・企画展での連携等、記念館と一体となった広報、利用者サービスを積極的に行い、集客率の向上を図ります。

(13) その他の活動

①埼玉県に提出し承認を受けた事業5ヵ年計画の実施項目「毎日がコックピット搭乗体験」、「格納庫の第2展示館化」等、年度予算を考慮して年度計画を作成し、適切な調整を図ります。

②埼玉県が主導する記念館リニューアル推進委員会を活用し、展示機体の入れ替えや設備・常設展示物の老朽化対策を推進します。

③2017年度に予定されている次期指定管理者の公募に向けて、広くアンケートによるニーズ調査を実施し、そのニーズ分析結果をもとに事業計画の策定準備に取り組みます。

2. 青森県立三沢航空科学館の運営 (青森県の委託事業)

青森県立三沢航空科学館は、世界初の太平洋無着陸横断飛行の離陸地となるなど航空史と縁の深い三沢

の地に誕生した大規模な航空科学館です。当財団は、計画当初からこの航空科学館に関わり、三沢市ゆかりのミス・ビートル号をはじめ航研機などの復元機の製作を行いました。2006年度より指定管理者制度が導入され、特定非営利活動法人テイクオフみさわ、育栄管財株式会社、株式会社乃村工藝社と当財団の4法人により受注し、同館の運営を行っています。当財団は主に次の事業を担当しています。

(1) 展示物の点検・補修・改善

展示装置の異常や故障などを未然に防止し、正常な稼動と安全運用を確保するため、年4回保守点検業務を実施します。

(2) イベントの開催等

科学に関するテーマの特別展を企画し、夏休み期間に三沢航空科学館で開催します。

III. 他館に対する活動支援事業

科学技術館の運営経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設に対して、それら施設の新規設置や更新、あるいは新たな「活動づくり」にあたってのコンセプト作りなどの支援を総合的にを行います。

1. プレアデス事業による教育文化施設に対する企画・開発・保守支援

(1) 新規設置

- ①地方公共団体等が運営するデジタルドームシアターの設置に関わる業務受注を目指します。
- ②研究所等の特殊映像システムの受注を目指します。

(2) 保守、運営支援

- ①日立シビックセンター「天球劇場」保守点検業務（(公財)日立文化情報財団の委託事業）
- ②山梨県立科学館プラネタリウム保守点検業務（(公財)山梨県青少年協会の委託事業）
- ③プラネタリウムシステムソフトウェア保守（川崎市および平塚市の委託事業）
- ④岡三証券神楽洞夢保守点検業務（(株)岡三証券グループの委託事業）
- ⑤サイエンスヒルズこまつ3Dスタジオ保守点検業務（小松市の委託事業）

(3) 新規開発

①機器評価

新規技術を採用した機器の評価と試験を行い、新規に提案を行っていくシステムを確立します。

2. 教育文化施設に対する企画・開発・保守支援

(1) 企画開発業務

- ①地方公共団体等が設置する科学館等の教育文化施設に関わる企画開発業務の受注を目指します。

(2) 運営業務

- ①地方公共団体等が設置する科学館等の教育文化施設に関わる運営業務（指定管理者、PFI）の受注を

目指します。

(3) 保守支援業務

- ①鳥取市博物館常設展示装置保守点検業務（(公財)鳥取市文化財団の委託事業）

IV. 科学技術系人財の育成事業

科学技術体験イベント、科学オリンピックなど、科学技術への興味関心を引き起こすレベルから専門家を目指すレベルまで、広範な活動を通して科学技術系人財の育成事業を推進します。

1. 科学技術体験イベントの開催

(1) 「青少年のための科学の祭典」の開催

- ①青少年のための科学の祭典全国大会

産業・学術との連携を強化し、企業・団体のCSR活動とした出展や、日本学生科学賞との連携により全国レベルの中学校・高等学校の研究発表を実施することで、幅広い年齢層の来場者の科学技術に対する興味関心を高める全国大会を目指します。また、近隣の高校生の出展補助スタッフとしてのボランティアを募り、教えることの経験を通じた教育的効果を高めます。

会期：2016年7月30日（土）～7月31日（日）（予定）

- ②青少年のための科学の祭典自主大会

日本全国の市町村において、各開催地の大会実行委員会と当財団とが共催する約90の大会を予定しており、全国で開催される「青少年のための科学の祭典」とのネットワークを強化します。

(2) 少年少女創造性育成事業業務（(公財)新技術開発財団の委託事業）

小中学生を対象とし、複写機を題材としてその原理と分解を行うワークショップを2回、市村アイデア賞受賞者を対象とした表彰式、入選作品展および科学教室を1回開催します。

(3) 子供科学人材育成事業（沖縄県の委託事業）

学校教育現場以外において、科学技術や産業技術に親子で関心を持ってもらう場の創出とともに、地域イベント等とのタイアップにより、科学コミュニケーション活動を通じて広く科学技術・産業技術の理解を地域に浸透させていきます。

(4) STEM教育プログラムの実施（ボーイング社助成事業）

STEM (Science, Technology, Engineering and Mathematics) プログラムによる、小中学生を対象として、科学、技術、工学、数学の分野のリテラシー向上のためのイベントやワークショップを今秋に実施予定です。

2. 科学オリンピック国内大会・国際大会

(1) 日本生物学オリンピック2016の開催、第27回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣

(国研) 科学技術振興機構の支援事業)

日本生物学オリンピックは、大学等高等教育機関就学前の青少年を対象として、生物学への関心が高く才能ある生徒に国際的なコンテストへの挑戦の機会を提供してその才能を伸ばし、将来のわが国の科学技術を支える人財の育成を図るとともに、広く一般に生物学・生物学教育に対して興味と関心を持ってもらう活動です。国内大会「日本生物学オリンピック 2016」は、全国規模（100 会場予定）で7月に実施する予選に続き、筑波大学の協力を得て8月に同大学で本選を開催します。

- ①「日本生物学オリンピック 2016」の成績優秀者から、2017年にイギリスで開催される第28回国際生物学オリンピック日本代表4名を選抜します。
- ②2015年に開催された日本生物学オリンピックから選抜された日本代表4名を7月にベトナムで開催される第27回国際生物学オリンピックに派遣します。

3. 教員のための理科実験指導育成講座開催

(1) 教員のための理科実験スキルアップ講座の開催

(公財) 東京応化科学技術振興財団の助成事業 (予定)

豊富な経験と確かな理論的裏打ちや、細やかな実験演示のテクニックを有する「青少年のための科学の祭典」全国大会の実行委員の先生方が講師役を務め、授業や社会教育活動でも役立つ実践的な理科実験の講習会を、主に小中学校の教員を対象として、物理・化学・生物・地学の分野毎に開催します。

V. 科学技術の普及啓発事業

優れた科学技術映像を選奨するコンクールと優秀作品のテレビ放映や全国の科学館での巡回上映を行い、映像を通じた科学技術の普及啓発事業を推進します。また、放射線等に関する理解増進活動等を推進し、環境やエネルギーに係る科学技術の普及啓発を図ります。

1. 科学技術映像祭の開催と優秀作品の上映

(1) 第57回科学技術映像祭の開催

科学技術週間に合わせ、入選作品発表会として科学技術館サイエンスホールにおいて、内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞をはじめ、各賞表彰式と入選作品上映会を開催します。また、科学技術映像の普及啓発のため、入選作品の上映会を全国の科学館で実施します。

科学技術映像ライブラリーについては、学校、官公庁、団体、企業などに幅広く利用してもらえるよう運営を行います。

2. 放射線・エネルギー等に関する理解増進活動

(1) 放射線・エネルギー等に関する理解促進事業

小・中・高等学校等の児童生徒、教育職員を対象に、放射線やエネルギー等に関する正しい知識の普及と理解促進を図っていきます。

- ①放射線教育を行う教育職員に対して放射線教育授業実践事例、指導案、放射線に関する資料等を提供する情報提供事業
- ②全国の科学館等での放射線実験教室（資源エネルギー庁の委託事業（予定）等）
- ③教職員等を対象にしたエネルギー・放射線等に関するセミナー（資源エネルギー庁の委託事業（予定）等）
- ④「青少年のための科学の祭典」でのエネルギー・放射線教室
- ⑤学校でのエネルギー教育活動を支援する事業（資源エネルギー庁の委託事業（予定）等）

VI. 科学技術の振興に関する調査研究事業

顧客ニーズを知るための科学技術館来館者調査、青少年のための科学の祭典・全国大会調査、展示や教育に関する動向調査等を行い、調査結果を現場で活用するとともに、当財団の広報活動の一環として、科学教育学会、ミュージアムマネジメント学会等で発表します。

VII. 科学技術の研究開発とその促進事業

2016年度事業計画策定時点では、当部門で計画・実施予定の事業はありません。

VIII. 情報システムの設計開発と運用サービス事業

データベース技術、ネットワーク技術、解析・シミュレーション技術、インターネット技術などを基に、官公庁および関連機関をはじめとして、民間企業や通信教育団体等から、情報システムの設計開発業務や運用サービス業務を受託し、財政基盤の安定化を図ります。

1. 情報システムの設計開発

(1) データベース技術やネットワーク技術を応用した情報システムの設計開発

データベース検索システム、教育機関や官公庁等における業務処理システム、通信教育支援システムなど、データベースやネットワークに係る情報システムの設計および開発・保守業務を受託し、実施します。

(2) 設計製造、製品管理関連ソフトウェアの設計開発

製造業関連の民間企業を中心に、PLMシステム、生産シミュレーションシステムなど、生産管理に係る情報システムの設計および開発業務を受託し、実施します。

(3) マルチメディア・データベースシステムおよびインターネット関連システムの設計開発

博物館や文化施設向けにマルチメディア展示システム、ネットショップをはじめとする Web 関連システムなど、展示やインターネットに係る情報システムの設計および開発・サポート業務を受託し、実施します。

(4) 解析・シミュレーション等の技術による新エネルギー関連システムの設計開発

太陽光発電システム、電力供給関連シミュレーションシステムなど、電力エネルギーに係る情報システムの設計および開発業務を受託し、実施します。

(5) その他

官公庁および関連機関や民間企業の Web による情報発信業務等の設計および開発・サポート業務を受託し、実施します。

2. 情報システムの運用サービス

官公庁および関連機関、通信教育団体等を中心に、インターネットを活用した情報処理システム等の運用サービス業務を受託し、実施します。

IX. 科学技術館施設の利用促進事業

科学技術館は公共性の高い施設のため、入館者の安全確保、施設整備等の対策強化に努めます。また、科学技術館諸施設の有効利用を図るため、催事場・サイエンスホール等の利用促進に努めます。

1. 建物および建築設備の維持管理

入館者が安全かつ快適な環境の中で見学・利用できるよう、建物の安全・衛生等の環境整備に努めます。

2. 館施設の活用

催事場、サイエンスホール、会議室を、科学技術の普及・交流等の場として提供するとともに、各種団体の利用促進に努め、財政基盤の安定化を図ります。あわせて、レストラン、ミュージアムショップ、スタジオ等関連する施設の運営委託を行います。

X. 補助を得て実施する事業（予定）

2016 年度は（公財）JKA から競輪の補助金の交付を受けて、次の事業を実施します。なお、本年 4 月の補助事業の採択および補助金の交付内定通知に伴い、事業内容および申請額（予算）に変更が生じた場合は、本年 6 月の理事会において再度議案として諮る予定です。

1. (公財) JKA 競輪補助事業

(1) 「高度化するIT技術と周辺機器技術等に対する理解増進及び普及啓発による技術向上への取組み」
補助事業(自転車等機械工業振興補助事業)

① 申請額

補助金	32,935 千円
自己資金	10,979 千円
事業費総額	43,914 千円

② 事業概要

常設展示室「エレクトロホール」を改修し、近年の電機・電子関連技術及び同分野の産業技術・機械工業技術をテーマとした展示室を整備します。本事業を通じて、IT技術を中心とする科学技術・機械技術・産業技術への理解増進を促し、本分野の産業と科学技術情報及び知識の普及啓発を図ります。本事業は2か年計画で実施予定です。

(注) 上記の内容は申請時点のものです。

(2) 「青少年の健やかな成長を育む活動」補助事業(公益事業振興補助事業)

① 申請額

補助金	4,784 千円
自己資金	4,785 千円
事業費総額	9,569 千円

② 事業概要

「化学」をテーマとした夏休み特別展を実施します。不思議さや迫力に富む化学現象を扱う「化学マジック」と呼ばれるデモンストレーションを中心として、化学の実践者が感じているところの化学の楽しさがわかる展示・演示プログラム等を実施します。本事業を通じて子どもから大人までが純粋に楽しみ、化学分野全般における興味関心の向上に寄与します。

XI. 助成を得て実施する事業 (予定)

2016年度は、(公財)日本財団、(一財)日本宝くじ協会、(公財)日本海事科学振興財団、(独法)国立青少年教育振興機構、および(公財)東京応化科学技術振興財団より助成金の交付を受けて、次の事業を実施します。なお、本年4月の助成事業の採択および助成金の交付内定通知に伴い、事業内容および申請額(予算)に変更が生じた場合は、本年6月の理事会において再度議案として諮る予定です。

1. (公財)日本財団助成事業

(1) 巡回展示物「おもしろ数楽展」(仮称)製作事業及び特別展の開催

① 申請額

助成金	8,480 千円
自己資金	2,120 千円
<hr/>	
事業費総額	10,600 千円

② 事業概要

「数学」をテーマとした巡回展示物を制作し、諸学問の最も基本となる本分野に関する興味関心や理解を促進し、科学技術分野の人材育成への波及を目指します。本年度は、展示企画設計と一部展示物制作を実施します。本事業は2か年計画で実施します。

2. (一財) 日本宝くじ協会 宝くじの社会貢献広報事業

(1) 「くすりの展示室」(仮称) 展示施設整備事業

① 申請額

助成金	40,000 千円
自己資金	45,000 千円
<hr/>	
事業費総額	85,000 千円

② 事業概要

科学技術館常設展示室(3階、330㎡)として、「くすりの展示室」(仮称)を整備します。「くすり教育」に関する学校教育を補完すべく、特に「くすりの役割」、「ヒトの健康」に焦点を当てつつ、現代社会におけるくすり・医療の関心事項を踏まえ、くすり全般にに対する正確な知識や興味関心の喚起、理解の促進が図られることを目指します。

3. (公財) 日本海事科学振興財団 海の学びミュージアムサポート支援事業

(1) プログラム1「海の企画展サポート」支援事業

① 申請額

助成金	8,711 千円
自己資金	2,178 千円
<hr/>	
事業費総額	10,889 千円

② 事業概要

海洋教育に資する企画展となる「たからのうみと うみのたから」を科学技術館の春休みに実施します。「海」を活用した次世代技術やそれに係る産業・科学技術について幅広く取り上げ、「海・海洋」への意識向上、興味関心を喚起できる機会を提供します。

4. (独法) 国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金助成事業

(1) 青少年のための科学の祭典 2016 全国大会

① 申請額

助成金	6,000 千円
自己資金	6,368 千円
<hr/>	
事業費総額	12,368 千円

② 事業概要

参加体験を基本コンセプトとして子どもから大人までが観て学び楽しむことができる様々な実験・実演ブースを全国から参集し、開催します。本事業では、子どもたちが科学の「楽しさ・面白さ」に触れ実体験できる場（きっかけ）を通じて、子どもたち同士が交流できる活動を展開します。

(2) 東京の自然から学ぼう！2016

① 申請額

助成金	593 千円
自己資金	100 千円
<hr/>	
事業費総額	693 千円

② 事業概要

本事業では、東京都を活動の拠点として様々なプログラム（北の丸公園内の生態調査、天体観察、河川・地質観察）を実施し、子どもが自然の中で様々な遊びや自然に触れ親しむ体験活動や子どもたち同士や子どもたちと様々な年代層の人達との相互理解を深める交流活動を展開します。今年度は、学校教育では学ぶ機会の少ない「地学」分野のプログラムを追加し、全体の実施回数も増やして、より一層充実した内容で実施します。

5. (公財) 東京応化科学技術振興財団 科学教育の普及・啓発助成事業

(1) 教員のための理科実験スキルアップ講座～ベテラン教師による実践的理科実験極意の伝授～

① 申請額

助成金	300 千円
自己資金	552 千円
<hr/>	
事業費総額	852 千円

② 事業概要

小学校・中学校の教員を対象とした理科（物理・化学・生物・地学）に関する講座を年4回（8講座）開催し、授業で役立つ実践的な手法や理科実験を盛り込んだプログラムを実施します。

(注) 上記の内容は申請時点のものです。